

2024年3月期 第1四半期 決算説明会 質疑応答の要約

開催日時： 2023年7月27日 16:00~16:40

開催場所： SBテクノロジー株式会社 本社 (Teams 開催)

回答者： 代表取締役社長 CEO 阿多 親市・・・(1)前段、(2)、(3)、(5)、(6)

取締役 常務執行役員 CFO 岡崎 正明・・・(1)後段、(4)、(7)

<質問者1>

- (1) フォントワークス株式の譲渡によって得る資金の金額と、使い道について教えてほしい。

2013年に同社を約20億円で買収し、今回の売却金額は約100億円となった。これによって得た資金はこれからの成長に向けた投資に使っていきたいと考えている。

現預金の増加は合計90億円を見込んでおり、今期で約70億円、それ以降で約20億円となる見通しである。

<質問者2>

- (2) 公共分野における2Q以降の売上総利益率について、第1四半期よりも上がる、あるいは下がる見通しがあるか。

今回受注したデジタル庁の不動産登記ベース・レジストリ実証案件については基礎的な研究やシステム開発が必要な段階であり、この第1四半期で約1億円の引当を行った。これ以降の売上総利益率は改善されると考えている。

- (3) 「Azure OpenAI Service」に関する引き合いの状況はどうか？また、御社の業績への影響をどのように考えているか？

現状引き合いは多くいただいている。お客様への展開事例を活かして、個別対応ではなく汎用的なソリューションを生み出していきたい。業績への貢献は来期以降になる想定。

- (4) フォントワークス株式の譲渡で得る資金の用途について、配当に影響する可能性はあるか？

今回株式譲渡によって得る資金については成長への投資を考えており、現時点で配当に回すことは検討していないが、従前より業績拡大に応じた増配を実施しており、今期も売却益を除く業績の進捗を見ながら検討したい。

<質問者3>

- (5) 中期経営計画におけるFY24連結営業利益の目標を9億円引き下げるとのことだが、すべてフォントワークス社の影響と考えてよいか？

ご認識の通り80億円の目標からフォントワークス社の影響のみを考慮している。

- (6) デジタル庁の不動産登記ベース・レジストリ案件の金額規模と収益性、また今後の展望について教えてほしい。

不動産登記ベース・レジストリは、各省庁の持つデータの基幹部分であることは認識している。本案件についてはまだ実証段階であり、全体の案件規模や収益性についてはまだ不確定であるが、当社としては最新技術を活用して対応していきたい。

<質問者4>

- (7) 販管費の増加について詳細を教えてほしい。

前年対比で約3.1億円増加しており、うち人件費が+1.7億円、業務委託費等が+0.7億円、その他諸経費が増えている。

以上